

平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分類] 普及技術

[成果名] 水稻移植用初中期一発除草剤としてクサカリテイオー 1 キロ粒剤、黒帯フロアブル、サンシャインフロアブル、シリウスターボジャンボ、シロノックLジャンボ、パッチリフロアブル、パッチリジャンボ、パンチャーフロアブル、イネキング 1 キロ粒剤が有効である

[要約] 移植水稻に対して、クサカリテイオー1キロ粒剤を移植直後からノビエ 1.5 葉期に 1kg/10a、黒帯フロアブルを移植直後からノビエ 2.5 葉期に 500ml/10a、サンシャインフロアブルを移植後 3 日からノビエ 2 葉期に 500ml/10a、シリウスターボジャンボを移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期に 10 個(300g)/10a、シロノックLジャンボを移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期に 10 個(350g)/10a、パッチリフロアブルを移植直後～ノビエ 2.5 葉期に 500ml/10a、パッチリジャンボを移植直後～ノビエ 2.5 葉期に 10 個(400g)/10a、パンチャーフロアブルを移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期まで 500ml/10a、イネキング 1 キロ粒剤を移植直後からノビエ 2.5 葉期に 1kg/10a、それぞれを湛水散布することで効果的な雑草防除が可能である。

[担当] 農業試験場作物部、南信農業試験場栽培部、農業技術課

[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

省力的な移植用初中期一発除草剤の効果を検討する。

2 成果の内容・特徴

- (1) クサカリテイオー 1 キロ粒剤を移植直後からノビエ 1.5 葉期に 1kg/10a 湛水散布する。
- (2) 黒帯フロアブルを移植直後からノビエ 2.5 葉期に 500ml/10a 湛水散布する。
- (3) サンシャインフロアブルを移植後 3 日からノビエ 2 葉期に 500ml/10a 湛水散布する。
- (4) シリウスターボジャンボを移植後 5 日からノビエ 2.5 葉期に 10 個(300g)/10a 湛水散布する。
- (5) シロノックLジャンボを移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期に 10 個(350g)/10a 湛水散布する
- (6) パッチリフロアブルを移植直後～ノビエ 2.5 葉期に 500ml/10a 湛水散布する。
- (7) パッチリジャンボを移植直後～ノビエ 2.5 葉期に 10 個(400g)/10a 湛水散布する。
- (8) パンチャーフロアブルを移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期まで 500ml/10a 湛水散布する。
- (9) イネキング 1 キロ粒剤を移植直後からノビエ 2.5 葉期に 1kg/10a 湛水散布する
- (10) いずれも S U 抵抗性雑草に有効な成分を含む除草剤である。

農薬登録内容

クサカリテイオー1キロ粒剤51

[一般名及び有効成分名] プロピネチド 9.0%、ヘンシメトール0.51%、ヘンチミン 3.9% 含有

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 21 年 9 月 22 日現在、JPP ネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり使用量	本剤の使用回数	プロピネチドを含む農薬の総使用回数	ヘンシメトールを含む農薬の総使用回数	ヘンチミンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、アオミドロ藻類による表層はく離	湛水散布	砂壤土～埴土	移植直後～ノビエ1.5葉期(但し、移植後30日まで)	1kg/10a	1回	2回以内	2回以内	2回以内

黒帯フロアブル

[一般名及び有効成分名] トラネキサム酸 1.2%、クロロピリド 7.0%、プロピネチド 18.0% 含有

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 21 年 9 月 22 日現在、JPP ネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり使用量	本剤の使用回数	トラネキサム酸を含む農薬の総使用回数	クロロピリドを含む農薬の総使用回数	プロピネチドを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田 1 年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ミズガヤツリ	原液湛水散布	砂壤土～埴土	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	500ml/10a	1回	2回以内	2回以内	2回以内

サンシャインフロアブル

[一般名及び有効成分名] ベンゾピシクロン3.9%、ピラクロニル3.9%含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a当たり使用量	本剤の使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	原液湛水散布	砂壤土～埴土	移植後3日～ノビエ2葉期(但し、移植後30日まで)	500ml/10a	1回	2回以内	2回以内

シリウスターボジャンボ

[一般名及び有効成分名] オキサジクロメホン2.7%、ベンゾピシクロン6.7%、ジメタトリン2.0%、ピラゾスルフロニル1.0%含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a当たり使用量	本剤の使用回数	オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	ジメタトリンを含む農薬の総使用回数	ピラゾスルフロニルを含む農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、ウリカワ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	砂壤土～埴土	移植後5日～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	小包装(パック) 10個(300g)/10a	1回	2回以内	2回以内	1回	2回以内

シロノックLジャンボ

[一般名及び有効成分名] カフェンストロル7.1%、ダイムロン14.3%、ベンゾピシクロン5.7%、ベンズフロメチル1.5%含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a当たり使用量	本剤の使用回数	カフェンストロルを含む農薬の総使用回数	ベンズフロメチルを含む農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数	ダイムロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	砂壤土～埴土	移植後3日～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	小包装(パック) 10個(350g)/10a	1回	1回	2回以内	2回以内	3回以内(但し、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)

パッチリフロアブル

[一般名及び有効成分名] イマゾスルフロニル1.7%、ピラクロニル3.7%、プロモブチド16.3%含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a当たり使用量	本剤の使用回数	イマゾスルフロニルを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田1年生雑草、ウリカワ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、藻類、表層はく離	湛水原液散布	砂壤土～埴土	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	500ml/10a	1回	2回以内	2回以内	2回以内

バッチリジャンボ

[一般名及び有効成分名] イマゾスルフロン2.25%、ピラクロニル5.0%、プロモブチド22.5% 含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10aあたり使用量	本剤の使用回数	イマゾスルフロンを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田1年生雑草、ウリカワ、セリ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	砂壤土～埴土	移植直後～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	小包装(パック) 10個 (400g) /10a	1回	2回以内	2回以内	2回以内

パンチャーフロアブル

[一般名及び有効成分名] フェントサミド6.0%、ベンゾフェナップ16.0%、ベンゾレート10.0% 含有
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] フェントサミド B、ベンゾフェナップ B、ベンゾレート A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10aあたり使用量	本剤の使用回数	ベンゾフェナップを含む農薬の総使用回数	フェントサミドを含む農薬の総使用回数	ベンゾレートを含有する農薬の総使用回数
移植水稻	水田1年生雑草、ウリカワ、クログワイ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	原液湛水散布	砂壤土～埴土	移植後5日～ノビエ2.5葉期(但し、移植後30日まで)	500ml/10a	1回	2回以内	1回	2回以内

イネキング1キロ粒剤

[一般名及び有効成分名] ピラクロニル2.0%、ピラゾレート10.0%、ベンゾピシクロン2.0%
 [毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] ピラクロニル A、ピラゾレート B、ベンゾピシクロン A
 [対象作物に対する適用登録状況 (平成21年9月22日現在、JPPネット確認)]

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10aあたり使用量	本剤の使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	ピラゾレートを含有する農薬の総使用回数	ベンゾピシクロンを含む農薬の総使用回数

3 利用上の留意点

- (1) 処理にあたっては、ノビエの葉齢を適確に判定して散布するとともに、使用時期を守ること。
- (2) クサカリテオー1キロ粒剤、バッチルフロアブルは田植え同時処理ができる。
- (3) プロモブチド、クロメクロップ、ベンゾピシクロン、ピラクロニルはスルホニルウレア系除草剤抵抗性雑草に有効な成分である。
- (4) パンチャーフロアブル、イネキング1キロ粒剤、サンシャンフロアブル、黒帯フロアブルは非スルホニルウレア除草剤でSU抵抗性雑草に有効である。
- (5) そのほかの使用上の留意事項は防除基準の初中期一発除草剤の留意事項に準ずる。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) クサカリティオ-1キロ粒剤

ア 平成16年農事試験場では、移植直後からノビエ1.5葉期処理において、薬害なくノビエ等一年生雑草、ホタルイ、ミズガヤツリ、オモダカに効果が高かった(表2, 3)。

表1 試験区の構成 (平成16年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前(+0)	1kg
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉期(+11)	1kg
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉期(+13)	1kg
4	ウルフェース1キロ粒剤	+5	1kg
5	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(沖積中粗粒グライ土、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月30日、植代: 5月10日、移植: 5月12日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)
処理時期の+数字は移植後の日数を示す(以下すべての表について同様)

表2 除草効果 (平成16年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害							合計	(オモダカ)	藻類
		ノビエ	コナギ	他一年生広葉	マツバ	ホタルイ	ミズガヤツリ	イ			
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前	t	0	0	0	t	0	t	(t)	10
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉	0	0	t	0	0	0	t	(0)	10
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉	t	0	0	0	t	0	t	(t)	10
4	ウルフェース1キロ粒剤(+5)		0	0	0	0	0	0	t	(0)	0
5	無処理		0.5	24.4	5	t	8.8	0.1	38.9	5	0
			12		16		30	3.0		12	

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%、オモダカは埋め込み、藻類は被度
t(trace)は四捨五入して1%未満(以下すべての表について同様)

表3 収量 (平成16年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月3日調査			収穫			
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²	穂数本/m ²	出穂期月/日	精玄米重kg/10a	完全除草区比%	
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前	無	-	71	404	404	7月23日	490	104
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉	無	-	70	344	398	7月23日	496	105
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉	無	-	70	368	476	7月23日	444	94
4	ウルフェース1キロ粒剤(+5)		無	-	68	398	416	7月23日	546	105
5	無処理		-	-	65	338	368	7月22日	436	78

イ 平成17年、南信農業試験場では、移植直後からノビエ1.5葉期処理において、薬害なくノビエ等一年生雑草、ホタルイ、オモダカに効果が高かった(表5, 6)。

表4 試験区の構成 (平成17年、南信農業試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前(+0)	1kg
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉期(+6)	1kg
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉期(+11)	1kg
4	ウルフェース1キロ粒剤	+5	1kg
5	ソルネット1キロ粒剤+クミリードSM1キロ粒剤	+3 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(沖積中粗粒グライ土、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月30日、植代: 5月10日、移植: 5月12日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表5 除草効果 (平成17年、南信農業試験場)

No.	試験区名	一年生									合計	
		ノビエ	カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	マツバ	ホタルイ	タウコ	クログ	オモダ		
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前	1%	0	1	0	0	t	t	8	6	1%
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉	t	0	0	0	0	t	1	17	7	t
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉	0	0	t	0	0	0	8	0	4	t
4	ウルフェース1キロ粒剤(+5)		0	0	t	0	0	0	0	2	1	t
5	ソルネット1キロ粒剤(+3)+クミリードSM1キロ粒剤(+20)		t	0	t	0	0	0	0	0	4	t
6	無処理		130.0	0.0	17.5	0.7	4.7	7.2	4.7	0.21	0.43	166.1
			261		3				7	1	2	

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%

表6 水稻への影響 (平成17年、南信農業試験場)

No.	試験区名	薬害		10月3日調査			収穫			
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²	穂数本/m ²	出穂期月/日	精玄米重kg/10a	完全除草区比%	
1	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ発生前	無	-	63	470	486	7/27	867	91
2	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1葉	無	-	63	698	590	7/27	866	91
3	クサカリティオ-1キロ粒剤	ノビエ1.5葉	無	-	62	524	514	7/27	787	83
4	ウルフェース1キロ粒剤(+5)		無	-	62	548	545	7/27	926	97
5	ソルネット1キロ粒剤(+3)+クミリードSM1キロ粒剤(+20)		無	-	63	557	513	7/27	954	100
6	無処理		-	-	61	394	352	7/27	449	47

(2) 黒帯フロアブル

ア 平成18年、農事試験場では移植直後からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに効果を示した(表8, 9)。2.5葉期処理のノビエの残草については絶対量が極少なかった。

表7 試験区の構成 (平成18年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	黒帯フロアブル	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	黒帯フロアブル	ノビエ2.5葉期	500ml
3	黒帯フロアブル	ノビエ2.5葉期	500ml
4	ウルフエース1和粒剤	+5	500ml
5	リネット1和粒剤 + マメツSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種あきたこまち、耕起・整地: 4月25日、植代日5月10日、移植日: 5月15日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表8 除草効果 (平成18年、農事試験場)

No.	試験区名	ノビエ	一年生カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ	合計	表層剥離	オモダカ
1	黒帯フロアブル ノビエ発生前	1%	t	2	t	t	t	(40)	(0)
2	黒帯フロアブル ノビエ2葉	1	0	0	0	t	t	(25)	(0)
3	黒帯フロアブル ノビエ2.5葉	20	0	0	0	1	1	(40)	(0)
4	ウルフエース1和粒剤	0	0	0	17	t	3	50	0
5	リネット1和粒剤(+1) + マメツSM1和粒剤(+20)	0	0	0	0	13	10	50	0
6	無処理	5.8g 29本	0.6 150	10.3 331	22.2	108.1 1,416	147.0	被度 (50%)	(0.02) (0.15)

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数 /m²、処理区は重量無処理対比%、オモダカは埋め込み

表9 水稲への影響 (平成18年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日調査			収量		
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²	穂数本/m ²	出穂期月/日	精籾重kg/10a	完全除草区比%
1	黒帯フロアブル ノビエ発生前	無	-	50	698	470	8/3	751	101
2	黒帯フロアブル ノビエ2葉	無	-	47	709	468	8/3	732	98
3	黒帯フロアブル ノビエ2.5葉	無	-	49	631	470	8/3	757	101
4	ウルフエース1和粒剤	無	-	49	627	430	8/2	756	101
5	リネット1和粒剤(+1) + マメツSM1和粒剤(+20)	生育抑制	微	51	636	432	8/2	746	100
6	無処理			49	517	322	8/1	531	71

イ 平成19年、農事試験場では+5処理で軽微な薬害があったが回復が早く、その後の生育収量に影響はなかった。除草効果は高かった(表11, 12)。

表10 試験区の構成 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	黒帯フロアブル	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	黒帯フロアブル	+5	500ml
3	黒帯フロアブル	ノビエ2.5葉期	500ml
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	リネット1和粒剤 + マメツSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月25日、植代: 5月10日、移植日: 5月15日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表11 除草効果 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	ノビエ	一年生カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ	合計	表層剥離	刈グワイ
1	黒帯フロアブル ノビエ発生前	0%	0	1	0	3	t	30	(0)
2	黒帯フロアブル (+5)	0	0	t	0	0	t	20	(0)
3	黒帯フロアブル ノビエ2.5葉	0	0	2	0	4	1	30	(0)
4	トップガンLフロアブル (+5)	0	0	0	1	0	t	(30)	(0)
5	リネット1和粒剤(+1) + マメツSM1和粒剤(+20)	0	0	t	0	2	t	(30)	(0)
6	無処理	1.3 0.1	12.6 110	16.0 274	19.9	16.2 156	66.0	被度 (50%)	(1.96) (4.8)

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数 /m²、処理区は重量無処理対比%、刈グワイは埋め込み

表12 水稲への影響 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日			収量		
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²	穂数本/m ²	出穂期月/日	精籾重kg/10a	完全除草区比%
1	黒帯フロアブル ノビエ発生前	無	-	73	560	464	8/3	817	99
2	黒帯フロアブル (+5)	黄化	微	72	536	427	8/3	765	92
3	黒帯フロアブル ノビエ2.5葉	無	-	71	506	418	8/3	762	92
4	トップガンLフロアブル (+5)	無	-	71	496	405	8/3	668	81
5	リネット1和粒剤(+1) + マメツSM1和粒剤(+20)	無	-	74	513	412	8/3	828	100
6	無処理	-	-	59	271	235	8/3	391	47

(3) サンシャインフロアブル

ア 平成19年、農事試験場では移植後3日からノビエ2葉期処理で薬害なくノビエ等一年生雑草、ホタルイ、ミズガヤツリに高い除草効果が得られた(表14,15)。

表13 試験区の構成 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	サンシャインフロアブル	+3	500ml
2	サンシャインフロアブル	ノビエ1.5葉期	500ml
3	サンシャインフロアブル	ノビエ2葉期	500ml
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	ylネット1粒剤 + マットSM1粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m² 2区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種あきたこまち、耕起・整地4月26日、植代日5月11日、移植日: 5月16日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表14 除草効果 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	ノビエ	一年生カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ	ミズガヤツリ	合計	表層剥離	オモダカ
1	サンシャインフロアブル(+3)	0%	0	0	0	0	0	0	40	(0)
2	サンシャインフロアブルノビエ1.5葉期	0	0	0	0	0	0	0	25	(0)
3	サンシャインフロアブルノビエ2葉期	0	0	0	t	2	0	1	30	(0)
4	トップガンLフロアブル(+5)	0	0	0	1	0	0	t	40	(0)
5	ylネット1粒剤(+1) + マットSM1粒剤(+20)	0	0	0	0	4	0	3	30	(t)
6	無処理	4.7g 10.5本	0.1 10	9.7 471	8.2	52.0 781	0.3 0.63	75.0	被度 60%	(2.8) (0.1)

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%、オモダカは埋め込み

表15 水稲への影響 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日調査		穂数本/m ²	出穂期月/日	収量	
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²			精籾重kg/10a	完全除草区比%
1	サンシャインフロアブル(+3)	無	-	75	562	424	8/3	857	106
2	サンシャインフロアブルノビエ1.5葉期	無	-	74	554	431	8/3	836	103
3	サンシャインフロアブルノビエ2葉期	無	-	73	548	413	8/3	822	102
4	トップガンLフロアブル(+5)	無	-	76	565	455	8/3	858	106
5	ylネット1粒剤(+1) + マットSM1粒剤(+20)	無	-	74	499	405	8/3	808	100
6	無処理	-	-	64	310	265	8/3	467	58

イ 平成21年、松本市、伊那市の現地試験では慣行剤と同等の除草効果が認められた(表16,18)。

表16 現地における雑草防除効果 (平成21年、松本普及セ)

試験区名	ノビエ		アゼナ		ホタルイ		オモダカ		合計	
	風乾重g	同左比率%	風乾重g	同左比率%	風乾重g	同左比率%	風乾重g	同左比率%	風乾重g	同左比率%
サンシャインフロアブル (本数)	0.2 (2)	33	0 0	0 0	0 0	0 0	0.08 (2)	66	0.28	4
無処理 (本数)	0.6 (58)	100		100	6.08 (436)	100	0.12 (12)	100	6.8	100
テラガードLジャンボ (本数)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
無処理 (本数)	0.18 (6)	100	0.2 (28)	100	0.6 (6)	100	0 0	100	0.98	100

注) 標高560m、土質(沖積土)・土性(砂壤土)、減水深1cm/日、品種コシヒカリ、稚苗、代かき5月17日、移植日5月20日、雑草調査m²当たり、6月26日

表17 現地における水稲の生育 (平成21年、松本普及セ)

試験区名	薬害		最高分けつ期		出穂期月日	成熟期		
	程度	症状	草丈cm	茎数/m ²		稈長cm	穂長cm	穂数/m ²
サンシャインフロアブル	無	-	47	503	8月14日	88	18.1	343
無処理	-	-	45	495	8月14日	87	19.8	337
テラガードLジャンボ	無	-	51	554	8月14日	90	17.8	446
無処理	-	-	48	437	8月14日	89	18.4	416

注) 雑草調査終了後6月26日にヒエクリーンバサグラン粒剤散布

表18 現地における雑草防除効果

(平成21年上伊那普及セ)

試験区名	オモダカ		アゼナ		ミゾハコベ		(その他1年生雑草)		合計	
	風乾重 (g)	同左比 (%)	風乾重 (g)	同左比 (%)	風乾重 (g)	同左比 (%)	風乾重 (g)	同左比 (%)	風乾重 (g)	同左比 (%)
サンシャインフロアブル(+5) (本数)	0 (0)	0	0 (0)	0	0 (0)	0	0 (0)	0	0	0
アピロスター1キロ粒剤(+5) (本数)	0.6 (10)	1000	0.002 (8)	2.7	- (0)	0	- (0)	0	0.6	29
無処理区 (本数)	0.06 (12)	100	0.74 (286)	100	1.26 (186)	100	0.004 (14)	100	2.06	100

注) 試験条件: 標高 650m、沖積、砂壤土、減水深1cm/日、品種 コシヒカリ、中苗、代かき4月30日・5月8日、移植5月10日、面積7a隣接別ほ場、無反復、雑草調査数値は㎡当たり、6月5日調査

表19 現地における水稲の生育

(平成21年上伊那普及セ)

試験区名	薬害		最高分け時期		出穂期 月 日	成熟期		
	症状	程度	草丈	㎡茎数		稈長	穂長	㎡穂数
サンシャインフロアブル(+5)	無	-	57	341	8月10日	85	19.0	381
アピロスター1キロ粒剤(+5)	無	-	53	447	8月10日	80	18.1	324
無処理	-	-	53	337	8月10日	81	18.8	354

(4) シリウスターボジャンボ

ア 平成20年、農事試験場では田植え後5日からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに高い効果を示した(表21,22)。

表20 試験区の構成

(平成20年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	シリウスターボジャンボ	+5	30g×10個
2	シリウスターボジャンボ	ノビエ2葉期(+12)	30g×10個
3	シリウスターボジャンボ	ノビエ2.5葉期(+14)	30g×10個
4	トップガソル70アブル	+5	500ml
5	リネット1kg粒剤+マメットSM1kg粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3㎡2区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月26日、植代: 5月9日、移植: 5月14日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/㎡)

表21 除草効果

(平成20年、農事試験場)

No.	試験区名	一年生						藻類	表層剥離	オモダカ	クログワイ
		ノビエ	カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ	合計				
1	シリウスターボジャンボ(+5)	0%	0	0	0	0	0	35	40	(30)	(53)
2	シリウスターボジャンボノビエ2葉	0	0	0	0	0	0	20	微	(23)	(73)
3	シリウスターボジャンボノビエ2.5葉	1	0	t	0	t	t	15	10	(18)	(97)
4	トップガソル70アブル(+5)	0	0	t	t	t	t	10	70	(88)	(46)
5	リネット1kg粒剤(+1)+マメットSM1kg粒剤(+20)	0	0	0	0	5	2	微	60	(31)	(39)
6	無処理	74.9	0.3	4.1	14.7	92.6	186.7	被度	被度	(10.8)	(8.6)
		269	128	633		3328		15%	60%	(14)	(11)

注) 無処理の上段: 風乾重g/㎡、下段: 本数/㎡、処理区は重量無処理対比%、ホタルイ、クログワイは埋め込み

表22 水稲への影響

(平成20年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日調査		穂数 本/㎡	出穂期 月/日	収量	
		症状	程度	草丈cm	茎数/㎡			精粗重 kg/10a	完全除草 区比%
1	シリウスターボジャンボ(+5)	無	-	68	681	513	7/28	837	110
2	シリウスターボジャンボノビエ2葉	無	-	67	577	484	7/28	825	108
3	シリウスターボジャンボノビエ2.5葉	無	-	65	659	534	7/28	844	110
4	トップガソル70アブル(+5)	無	-	66	561	489	7/28	785	103
5	リネット1kg粒剤(+1)+マメットSM1kg粒剤(+20)	無	-	65	629	512	7/28	764	100
6	無処理	-	-	56	247	200	7/28	229	30

イ 平成20年、伊那市、諏訪市の現地試験では薬害なく慣行と同等の効果が認められた(表23~26)。

表23 現地における雑草防除効果

(平成20年、上伊那普及セ)

供試薬剤	ノビエ		アゼナ		ホタルイ		ミズガヤツリ		合計	
	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %
シリウスターボジャンボ(+7) (本数)	0 0	0	0 0	0	0.15 (72)	13	0 0	0	0.15 (72)	6
ショキニーフロアブル(+3) (本数)	0.02 (4)	50	0 0	0	0 0	0	0 0	0	0.02 (4)	1
無処理 (本数)	0.04 (8)	100	0.04 (112)	100	2.28 (528)	100	0.05 (26)	100	2.41 (674)	100

注) 試験条件: 標高 650m、沖積、砂壤土、減水深2cm/日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月9日、移植5月12日
試験面積試験区11.3a、対照25.3a、1区制、無処理区6.0m²、雑草調査はm²当り、6月9日、散布後24日実施

表24 現地における水稻の生育

(平成20年、上伊那普及セ)

供試薬剤	薬害		最高分けつ期 (7月15日)		出穂期 月日	成熟期 (9月3日)		
	程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²		稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²
シリウスターボジャンボ(+7)	無	-	52	460	8月4日	74	18.5	362
ショキニーフロアブル(+3)	無	-	53	639	8月4日	77	16.7	455
無処理	-	-	-	-	8月4日	61	16.8	203

表25 現地における雑草防除効果

(平成20年、諏訪普及セ)

供試薬剤	ノビエ		オモダカ		合計	
	風乾重 g	同左 比率%	風乾重 g	同左 比率%	風乾重 g	同左 比率%
シリウスタージャンボ フォーマット1扣粒剤	0 0.46	0 1,150	0 0	0 0	0 0.46	0 128
無処理区 (本数)	0.04 (4)	100	0.32 (4)	100	0.36 (8)	100

注) 試験条件: 標高 760m、土質(泥炭土)・土性(埴壤土、減水深11cm/日、品種コシヒカリ、代かき5月6日、移植日5月12日、面積14a、無反復、雑草調査はm²当り、6月24日調査

表26 現地における水稻の生育調査

(平成20年、諏訪普及セ)

供試薬剤	薬害		最高分けつ期		出穂期 月/日	成熟期		
	程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²		稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²
シリウスタージャンボ フォーマット1扣粒剤	無	-	55	469	8/9	78	19.8	446
無処理区	-	-	53	682	8/9	82	18.5	489

(5) シロノックLジャンボ

ア 平成19年、農事試験場では移植後3日からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに高い除草効果が得られた(表28,29)。

表27 試験区の構成 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	シロノックLジャンボ	+3	35g×10個
2	シロノックLジャンボ	ノビエ2葉期(+13)	35g×10個
3	シロノックLジャンボ	ノビエ2.5葉期(+17)	35g×10個
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	ylネット1和粒剤 + マットSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m² 2区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月26日、植代: 5月11日、移植日: 5月16日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表28 除草効果 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	一年生					合計	表層剥離	オモダカ	クログワイ
		ノビエ	カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ				
1	シロノックLジャンボ(+3)	0%	0	0	0	0	0	40	(0)	
2	シロノックLジャンボ ノビエ2葉(+13)	0	0	t	t	0	t	30	(0)	
3	シロノックLジャンボ ノビエ2.5葉(+17)	0	0	1	t	t	t	10	(0)	
4	トップガンLフロアブル(+5)	0	0	0	1	0	t	40	(0)	(0.14g)
5	ylネット1和粒剤(+1) + マットSM1和粒剤(+20)	0	0	0	0	4	3	30	(t)	(0)
6	無処理	4.7	0.1	9.7	8.2	52.0	75.0	被度	(2.8)	
		10.5	10	471		781		60%	(0.1)	

表29 水稻への影響 (平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日		穂数本/m ²	出穂期月/日	収量	
		症状	程度	草丈cm	茎数/m ²			精籾重kg/10a	完全除草区比%
1	シロノックLジャンボ(+3)	無	-	76	575	466	8/3	877	109
2	シロノックLジャンボ ノビエ2葉(+13)	無	-	77	663	510	8/3	906	112
3	シロノックLジャンボ ノビエ2.5葉(+17)	無	-	75	598	463	8/3	857	106
4	トップガンLフロアブル(+5)	無	-	76	565	455	8/3	858	106
5	ylネット1和粒剤(+1) + マットSM1和粒剤(+20)	無	-	74	499	405	8/3	808	100
6	無処理	-	-	64	310	265	8/3	467	58

イ 平成19年、伊那市の現地試験では薬害なく慣行剤と同等の高い除草効果が認められた(表30,31)。

表30 現地における雑草防除効果 (平成19年、上伊那普及セ)

試験区名	ノビエ		アゼナ		アメリカアゼナ		ホタルイ		合計	
	風乾重g	同左比率	風乾重g	同左比率	風乾重g	同左比率	風乾重g	同左比率	風乾重g	同左比率
シロノックLジャンボ	0	0	0.14	5	0	0	0	0	0.14	4
ザ・ワンフロアブル	0	0	0.03	1	0	0	0.12	25	0.15	4
無処理	0.02	100	2.61	100	0.24	100	0.48	100	3.35	100
(本数)	(8)		(456)		(48)		(12)		(524)	

注) 試験条件: 標高650m、土質・土性: 沖積、砂壤土、減水深2.5cm/日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月5日、移植5月8日、面積、区制: 1区6.8a(対照区4.7a)、無処理区6.0m²、無反復、雑草調査はm²当たり、6月14日調査

表31 現地における水稻の生育調査 (平成19年、上伊那普及セ)

試験区名	薬害		最高分けつ期		出穂期	成熟期		
	症状	程度	草丈cm	茎数/m ²		稈長cm	穂長cm	穂数/m ²
シロノックLジャンボ	無	-	55	549	8月12日	81	19.4	512
ザ・ワンフロアブル	無	-	60	683	8月12日	83	18.8	581
無処理	-	-	57	539	8月12日	83	17.7	474

表31 現地における水稻の生育調査 (平成19年、上伊那普及セ)

試験区名	薬害		最高分けつ期		出穂期	成熟期		
	症状	程度	草丈cm	茎数/m ²		稈長cm	穂長cm	穂数/m ²
シロノックLジャンボ	無	-	55	549	8月12日	81	19.4	512
ザ・ワンフロアブル	無	-	60	683	8月12日	83	18.8	581
無処理	-	-	57	539	8月12日	83	17.7	474

(6) バッチリフロアブル

ア 平成20年、農事試験場では移植直後からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに高い除草効果が得られた(表33,34)

表32 試験区の構成 (平成20年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	バッチリフロアブル	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	バッチリフロアブル	ノビエ2葉期(+12)	500ml
3	バッチリフロアブル	ノビエ2.5葉期(+14)	500ml
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	ソネット1kg粒剤+マメットSM1kg粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
 品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月26日、植代: 5月9日、移植: 5月14日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表33 除草効果 (平成20年、農事試験場)

No.	試験区名	ノビエ	一年生					合計	藻類	表層剥離	オモダカ	クログワイ
			ノビエ	カヤツリ	コナギ	他一年生広葉	ホタルイ					
1	バッチリフロアブル	ノビエ発生前	0%	0	0	0	0	0	5	85	(121)	(11)
2	バッチリフロアブル	ノビエ2葉	0	0	0	t	t	t	微	75	(31)	(17)
3	バッチリフロアブル	ノビエ2.5葉	0	0	0	2	t	t	微	75	(76)	(25)
4	トップガンLフロアブル(+5)		0	0	t	t	t	t	10	70	(46)	(88)
5	ソネット1kg粒剤(+1)+マメットSM1kg粒剤(+20)		0	0	0	0	5	2	微	60	(39)	(31)
6	無処理		74.9 g	0.3	4.1	14.7	92.6	186.7	被度	被度	(8.6)	(10.8)
			269 本	128	633		3,328		15%	60%	(11)	(14)

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%、オモダカ、クログワイは埋め込み

表34 水稻への影響 (平成20年、農事試験場)

No.	試験区名		薬害		7月17日		収量			
			症状	程度	草丈cm	茎数/m ²	穂数本/m ²	出穂期月/日	精重kg/10a	完全除草区比%
1	バッチリフロアブル	ノビエ発生前	無	-	64	622	491	7/28	849	111
2	バッチリフロアブル	ノビエ2葉	無	-	65	568	511	7/28	820	107
3	バッチリフロアブル	ノビエ2.5葉	無	-	65	710	526	7/28	768	101
4	トップガンLフロアブル(+5)		無	-	66	561	489	7/28	785	103
5	ソネット1kg粒剤(+1)+マメットSM1kg粒剤(+20)		無	-	65	629	512	7/28	764	100
6	無処理		-	-	56	247	200	7/28	229	30

イ 平成20年、原村試験地では移植直後からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイ、マツバイ、ヒルムシロに高い除草効果が得られた(表36,37)

表35 試験区の構成 (平成20年、原村試験地)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	バッチリフロアブル	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	バッチリフロアブル	ノビエ2葉期(+15)	500ml
3	バッチリフロアブル	ノビエ2.5葉期(+22)	500ml
4	スマートフロアブル	+5	500ml
5	スマートフロアブル(+0)+ザンペツDX1kg粒剤/区(2.5葉)	+0 +30	500ml 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高1020m、土質・土性: 沖積(表層多湿黒粘土)、減水深2.0cm/日、中苗移植栽培
 品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月30日、植代: 5月16日、移植: 5月27日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表36 除草効果 (平成20年、原村試験地)

No.	試験区名	ノビエ	コナギ	他一年生広葉	マツバイ	ホタルイ	ヒルムシロ	合計	(オモダカ)	(クログワイ)	
											1
2	バッチリフロアブル	ノビエ2葉(+15)	0	0	t	2	9	0	0	(0)	(8)
3	バッチリフロアブル	ノビエ2.5葉(+22)	0	0	t	0	0	0	0	(2)	(7)
4	スマートフロアブル(+5)		0	0	0	0	0	t	t	(0)	(11)
5	スマートフロアブル(+0)+ザンペツDX1kg粒剤/区(2.5葉)		t	0	0	2	9	t	t	(t)	(11)
6	無処理		17.5	1.9	1.7	0.6	0.2	15.0	36.9	(13.0)	(2.2)
			10	110	882		21			(38)	(7)

表37 水稲への影響

(平成20年、原村試験地)

No.	試験区名	薬害		10月3日調査		穂数 本/m ²	出穂期 月/日	収量	
		症状	程度	稈長cm	穂長cm			精籾重 kg/10a	完全除 草区 比%
1	バッチリフロアブル ノビエ発生前	無	-	92	17.3	569	8/7	825	95
2	バッチリフロアブル ノビエ2葉(+15)	無	-	94	17.2	550	8/7	859	99
3	バッチリフロアブル ノビエ2.5葉(+22)	無	-	93	17.2	566	8/6	907	104
4	スマートフロアブル(+5)	無	-	91	17.3	541	8/6	844	97
5	スマートフロアブル(+0)+ガザン・バツDX1kg粒剤/ビエ(2.5葉)	無	-	89	17.7	558	8/6	868	100
6	無処理	-	-	89	17.3	476	8/6	767	88

(7) バッチリジャンボ

ア 平成19年農事試験場では移植直後からノビエ2.5葉期までの処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイ、ミズガヤツリに高い除草効果が得られた(表39,40)。

表38 試験区の構成

(平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	バッチリジャンボ	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	バッチリジャンボ	ノビエ2葉期(+12)	500ml
3	バッチリジャンボ	ノビエ2.5葉期(+14)	500ml
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	リネット1和粒剤+マメットSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m² 2区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月26日、植代: 5月9日、移植: 5月14日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表39 除草効果

(平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	一年生						合計	表層剥 離	オモ ダカ	クロ グワイ
		ノビエ	カヤツ リ	コナギ	他一年 生広葉	ホタル イ	ミズガ ヤツリ				
1	バッチリジャンボ ノビエ発生前	0%	0	0	0	0	0	0	30	(0)	
2	バッチリジャンボ ノビエ2葉	0	0	0	0	t	0	t	20	(0)	
3	バッチリジャンボ ノビエ2.5葉	15	0	0	0	t	0	t	30	(0)	
4	トップガンLフロアブル(+5)	0	0	0	1	0	0	t	40	(0) (0.14g)	
5	リネット1和粒剤(+1)+マメットSM1和粒剤(+20)	0	0	0	0	4	0	3	30	(0) (0)	
6	無処理	4.7	0.1	9.7	8.2	52.0	0.3	75.0	被度	(2.8)	
		10.5	10	471		781	0.63		60%		

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%、*は埋め込み

表40 水稲への影響

(平成19年、農事試験場)

No.	試験区名	薬害		7月17日調査		穂数 本/m ²	出穂期 月/日	収量	
		程度	程度	草丈cm	茎数/m ²			精籾重 kg/10a	完全除 草区 比%
1	バッチリジャンボ ノビエ発生前	無	-	75	587	463	8/3	869	108
2	バッチリジャンボ ノビエ2葉	無	-	76	602	482	8/3	856	106
3	バッチリジャンボ ノビエ2.5葉	無	-	75	595	468	8/3	882	109
4	トップガンLフロアブル(+5)	無	-	76	565	455	8/3	858	106
5	リネット1和粒剤(+1)+マメットSM1和粒剤(+20)	無	-	74	499	405	8/3	808	100
6	無処理	-	-	64	310	265	8/3	467	58

イ 平成21年、木曾町での現地試験では薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイ、マツハイに高い除草効果が得られた(表41,42)。

表41 現地における雑草防除効果

(平成21年、木曾普及セ)

試験区名	ノビエ		アゼナ		ホタルイ		その他一年生雑草		マツハイ		合計		(オモダカ)	
	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%	風乾重 /m ²	同左比 率%
バッチリジャンボ(+7)	0	0	0	0	0.04	2	0	0	0.02	2	0.04	t	0.22	4
キチットジャンボ(+7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0.04	5	0.04	t	0.32	6
無処理 (本数)	0.03 (4)	100	0.3 (260)	100	1.97 (116)	100	4.1 (12)	100	0.88 (436)	100	7.28	100	5.67 (788)	100

注) 試験場所木曾町三岳、標高800m、土質・土性: 黒ボク土・砂壤土、減水深2.5cm/日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月18日、移植日5月25日、面積16a、1区制、雑草調査日6月30日

表42 現地における水稲の生育

(平成21年、木曾普及セ)

試験区名	薬害		最高分げつ期		出穂期 月日	成熟期		
	程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²		稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²
バッチリジャンボ(+7)	無	-	59	514	8月15日	75	17.0	486
キチットジャンボ(+7)	無	-	54	552	8月14日	75	17.8	289
無処理	-	-	50	546	8月16日	69	16.5	287

(8) パンチャーフロアブル

平成20年、農事試験場では移植後5日からノビエ2.5葉期処理で薬害なくノビエ等一年生雑草、ホタルイ、ミズガヤツリに高い除草効果が得られた(表44,45)。

表43 試験区の構成 (平成20年、農事試験場)

No. 試験区名	処理時期	処理量
1 パンチャーフロアブル	+5	500ml
2 パンチャーフロアブル	ノビエ2葉期	500ml
3 パンチャーフロアブル	ノビエ2.5葉期	500ml
4 トップガンLフロアブル	+5	500ml
5 ヴルネット1和粒剤 + マメットSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6 無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月26日、植代: 5月11日、移植: 5月16日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表44 除草効果 (平成20年、農事試験場)

No. 試験区名	ノビエ	一年生カヤツ	コナギ	他一年生	ホタルイ	合計	藻類	表層剥離	*クログワ	*オモダカ
1 パンチャーフロアブル(+5)	0%	0	0	0	0	0	微	80	(1)	(21)
2 パンチャーフロアブル ノビエ2葉期(+12)	0	0	0	0	0	0	微	75	(36)	(23)
3 パンチャーフロアブル ノビエ2.5葉期(+14)	0	0	0	0	0	0	微	80	(102)	(19)
4 トップガンLフロアブル(+5)	0	0	t	t	t	t	10	70	(46)	(88)
5 ヴルネット1和粒剤(+1) + マメットSM1和粒剤(+20)	0	0	0	0	0	2	微	60	(39)	(31)
6 無処理	74.9	0.3	4.1	14.7	14.7	186.7	被度	被度	(8.6)	(10.8)
	269	128	633				15%	60%	(11)	(14)

注) 無処理の上段: 風乾重g/m²、下段: 本数/m²、処理区は重量無処理対比%、*クログワ、*オモダカは埋め込み

表45 水稲への影響 (平成20年、農事試験場)

No. 試験区名	薬害		7月17日調査		穂数本/m ²	出穂期月/日	収量	
	症状	程度	草丈cm	茎数/m ²			精籾重kg/10	完全除草区
1 パンチャーフロアブル(+5)	無	-	65	579	498	7/28	771	101
2 パンチャーフロアブル ノビエ2葉期(+12)	無	-	64	579	470	7/28	819	107
3 パンチャーフロアブル ノビエ2.5葉期(+14)	無	-	65	568	494	7/28	813	106
4 トップガンLフロアブル(+5)	無	-	66	561	489	7/28	785	103
5 ヴルネット1和粒剤(+1) + マメットSM1和粒剤(+20)	無	-	65	629	512	7/28	764	100
6 無処理	-	-	56	247	200	7/28	229	30

イ 平成20年、木曾町の現地試験では一年生雑草、ホタルイ、オモダカに高い除草効果が認められた(表46)。

表46 現地における雑草防除効果 (平成20年、木曾普及セ)

試験区名	ノビエ		アゼナ		ホタルイ		マツバイ		合計		(オモダカ)	
	風乾重g/m ²	同左比率%	風乾重g/m ²	同左比率%	風乾重g/m ²	同左比率%	風乾重g/m ²	同左比率%	風乾重g/m ²	同左比率%	風乾重g/m ²	同左比率%
パンチャーフロアブル(+8)	0	-	t	t	0	0	0	0	t	t	0	0
ジョイスターLフロアブル(+8)	0	-	t	t	0	0	0	0	t	t	0.07	1
無処理区(本数)	0	-	0.73(416)	100	1.9(116)	100	1.26(244)	100	3.89	100	10.64(1144)	100

注) 試験場所: 三岳村、試験条件: 標高800m、黒ボク土・砂壤土、減水深2.5cm/日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月21日、移植5月24日、面積、区制16a、無反復、雑草調査日6月25日

表47 現地における水稲の生育調査 (平成20年、木曾普及セ)

試験区名	薬害		最高分けつ期		出穂期月日	成熟期		
	症状	程度	草丈cm	m ² 茎数		cm	穂長cm	m ² 穂数
パンチャーフロアブル(+8)	無	-	52	630	8.12	78	16.0	479
ジョイスターLフロアブル(+8)	無	-	53	570	8.12	77	15.7	428
無処理区	-	-	47	509	8.12	75	16.2	453

(9) イネキング1キロ粒剤

ア 平成21年、農業試験場では移植直後からノビエ2.5葉期処理で薬害なく、ノビエ等一年生雑草、ホタルイ、マツバイに高い効果が認められた(表49,50)。

表48 試験区の構成 (平成21年、農業試験場)

No.	試験区名	処理時期	処理量
1	イネキング1キロ粒剤	ノビエ発生前(+0)	500ml
2	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2葉期	500ml
3	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2.5葉期	500ml
4	トップガンLフロアブル	+5	500ml
5	リネット1和粒剤+マメットSM1和粒剤	+1 +20	1kg 1kg
6	無処理		

注) 試験規模: 1区6.3m²2区性、試験条件: 標高340m、土質・土性: 沖積(中粗粒灰褐色低地土)、減水深1.0cm/日、中苗移植栽培
品種: あきたこまち、耕起・整地: 4月25日、植代: 5月19日、移植日: 5月14日(3本手植え)、栽植密度: 30×15cm(22.2株/m²)

表49 除草効果 (平成21年、農業試験場)

No.	試験区名	ノビエ	一年生カヤツリ	コナギ	アザナ	他一年生広葉	マツバイ	ホタルイ	合計	藻類	表層剥離	モダカ	クログワイ
1	イネキング1キロ粒剤	ノビエ発生前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(19)	(0)
2	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(30)	(0)
3	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2.5葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	(0)
4	トップガンLフロアブル(+5)	0	0	0	0	0	0	0	t	3	0	(33)	(0)
5	リネット1和粒剤(+1)+マメットSM1和粒剤(+20)	-*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	無処理	28.7g 88本	0.1 50	8.9 864	1.9 -	1.9 -	t -	64.0 1756	122.8	0	-	0.4	0.1

注) クログワイ、オモダカは埋め込み、* 調査時期が異なるためデータは未記載(残草はほとんどなし)

表50 水稻への影響 (平成21年、農業試験場)

No.	試験区名	薬害		7月3日 茎数/m ²	穂数 本/m ²	出穂期 月/日	収量		
		症状	程度				精籾重 kg/10a	完全除草 対比%	
1	イネキング1キロ粒剤	ノビエ発生前	無	-	543	425	7/31	69.6	107
2	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2葉	無	-	562	432	7/31	68.1	105
3	イネキング1キロ粒剤	ノビエ2.5葉	無	-	563	413	7/31	70.1	108
4	トップガンLフロアブル(+5)	無	-	-	555	414	7/31	67.1	103
5	リネット1和粒剤(+1)+マメットSM1和粒剤(+20)	無	-	-	505	399	7/31	65.1	100
6	無処理	-	-	-	250	215	7/29	31.3	48

イ 平成20年、上田市及び飯田市の現地試験で専用散布機にて田植え同時処理を行ったところ、薬害なく、ノビエ、一年生雑草およびホタルイに実用的な雑草防除効果が得られた(表51~54)。

表51 現地における雑草防除効果 (平成20年、上小普及セ)

試験区名	ホタルイ		ミズガヤツリ		合計	
	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %
イネキング1キロ粒剤(田植え同時)	0.7	20	0	0	0.7	10
トップガンGT1和粒剤(田植え同時)	2.0	61	0	0	2.0	31
無処理 (本数)	3.3	100	3.1	100	6.4	100

注) 試験場所: 上田市、試験条件: 標高500m、褐色森林土、堆積土沖積、減水深2cm/日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月20日、移植5月23日、試験区対照区とも田植え同時散布機による処理、試験面積試験区13a1区制、調査日6月28日

表52 現地における水稻の生育 (平成20年、上小普及セ)

試験区名	薬害		最高分げつ期 (7月15日)		出穂期 月日	成熟期 (9月3日)		
	程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²		稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²
イネキング1キロ粒剤(田植え同時)	無	-	64	603	8月9日	94	18.1	425
トップガンGT1和粒剤(田植え同時)	無	-	64	609	8月9日	93	17.5	391
無処理	-	-	59	526	8月9日	-	-	-

表53 現地における雑草防除効果

(平成20年、下伊那普及セ)

試験区名	ノビエ		アゼナ		合計		(クログワイ)	
	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %	風乾重 g	同左比 率 %
イネキング1キロ粒剤(田植え同時)	0	0	0.06	0	0.06	4	0.66	5
イノバD X 1キロ粒剤(田植え同時)	0.02	20	0	0	0.02	2	0.31	2
無処理 (本数)	0.10	100	1.76	100	1.86	100	14.27	100

注) 試験場所: 飯田市、試験条件: 標高500m、褐色森林土、減水深 2cm / 日、品種コシヒカリ、中苗、代かき5月25日、移植 5月27日、試験区対照区とも田植え同時散布機による処理、試験面積試験区13a、1区制、調査日7月1日

表54 現地における水稻の生育

(平成20年、下伊那普及セ)

試験区名	薬害		最高分けつ期 (7月15日)		出穂期 月 日	成熟期 (9月3日)		
	程度	症状	草丈cm	m ² 茎数		稈長cm	穂長cm	m ² 穂数
イネキング1キロ粒剤(田植え同時)	無	-	62	621	8月4日	80	16.6	401
イノバD X 1キロ粒剤(田植え同時)	無	-	62	610	8月4日	77	15.8	396
無処理	-	-	59	599	8月5日	79	16.2	410

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 16~20 年度(2004~2008 年度)、民間受託
県植物防疫協会委託試験(普及展示ほ)、平成 18~21 年度(2006~2009 年度)、その他